

# 2006年3月期 決算説明会

(2005年4月1日～2006年3月31日)



2006年5月24日

I . 2006年3月期 連結決算概要

II . 2007年3月期 連結決算見通し

# I . 2006年3月期 連結決算概要

## 2006年3月期 連結決算ハイライト①

(百万円)	2006年3月期	2005年3月期	対前期 増減率	業績予想値 (2005/11/11)
売上高	6,304	6,103	+3.3%	6,200
精機部門	4,029	4,853	△17.0%	3,870
光製品部門	2,275	1,250	+81.9%	2,330
営業利益	1,048	1,714	△38.9%	880
経常利益	1,217	1,842	△33.9%	1,000
当期純利益	756	1,768	△57.2%	600

○ 当期純利益は、税効果会計の影響によって  
法人税等の負担が少なかった前期から大幅に減少

## 2006年3月期 連結決算ハイライト②

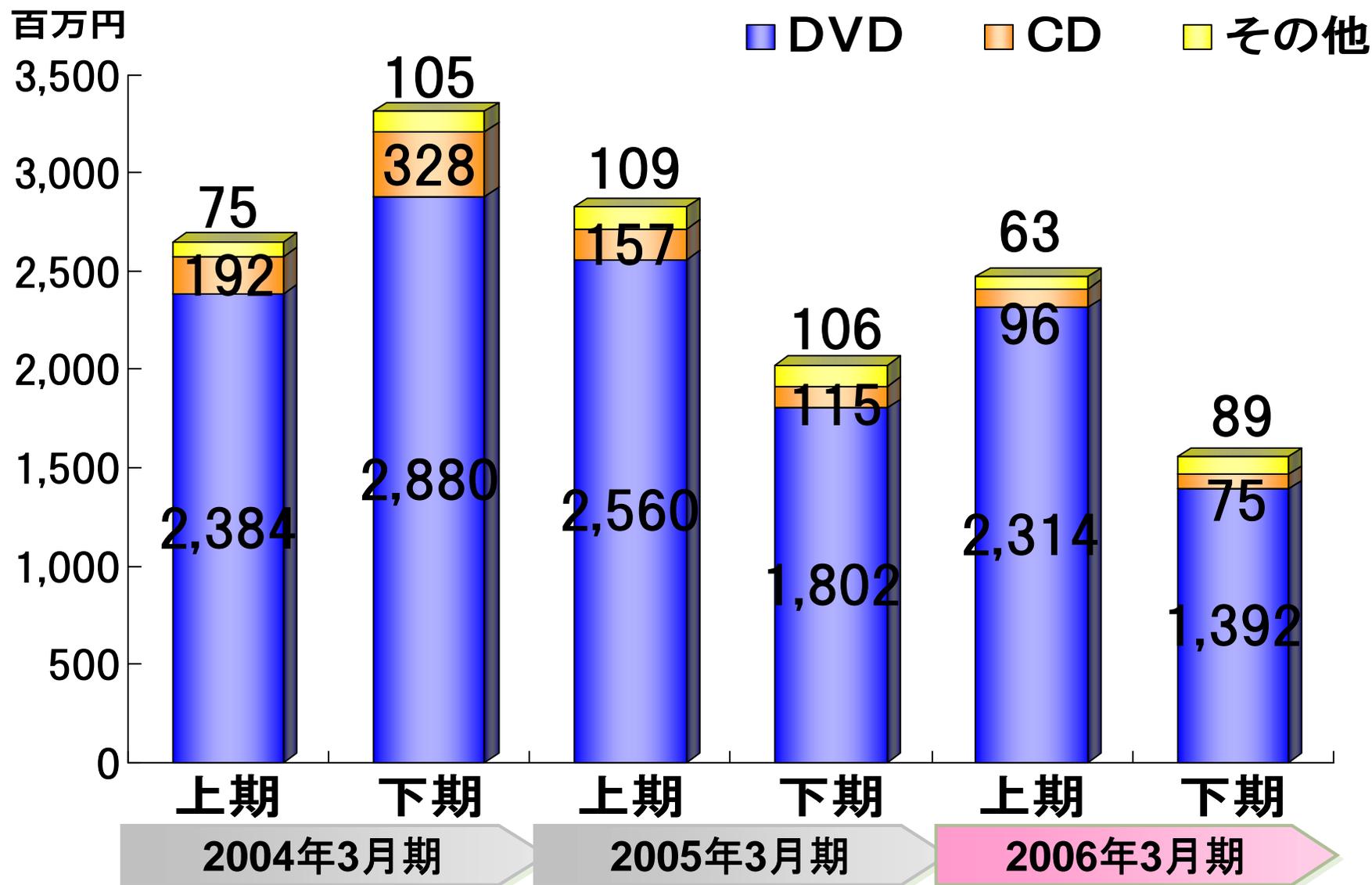
(百万円)	2006年3月期	2005年3月期	対前期 増減率
受注高	6,041	5,366	+12.6%
受注残	455	718	△36.6%
設備投資	977	168	+481.5%
減価償却費	573	500	+14.6%
研究開発費	472	382	+23.6%

## セグメント業績／精機部門

(百万円)	2006年3月期	2005年3月期	対前期 増減率
売上高	4,029	4,853	△17.0%
営業費用	2,754	3,029	△9.1%
営業利益	1,275	1,823	△30.0%
営業利益率	31.7%	37.6%	△5.9%

- DVD成形用金型の需要は、下半期から急減
- 次世代光ディスク用金型は、試作用の需要が発生

# セグメント別売上高／精機部門

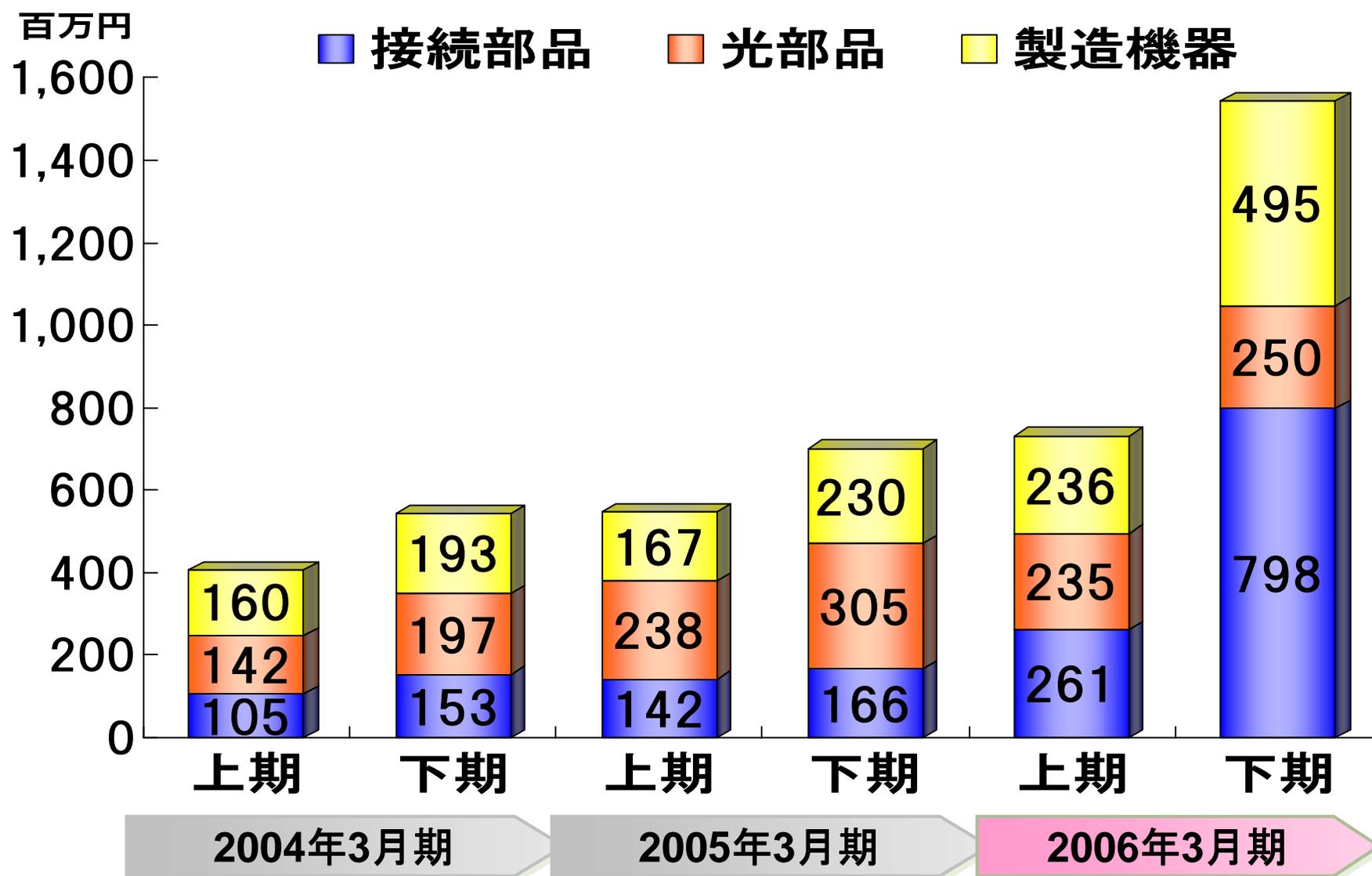


## セグメント業績／光製品部門

(百万円)	2006年3月期	2005年3月期	対前期 増減率
売上高	2,275	1,250	+81.9%
営業費用	2,502	1,359	+84.1%
営業利益	△227	△108	—
営業利益率	△10.0%	△8.7%	△1.3%

- SIIの光事業統合により、売上高は大幅に増加
- 事業統合に関わる一時的な費用の発生等で赤字幅拡大

# セグメント別売上高／光製品部門



# 連結貸借対照表

科目	(百万円)		
	2006年3月期	2005年3月期	増減額
<資産の部>			
流動資産	16,915	16,383	+532
固定資産	9,312	8,967	+344
資産合計	26,227	25,351	+876
<負債及び資本の部>			
流動負債	815	614	+201
固定負債	623	539	+84
資本の部	24,709	24,134	+575
負債・資本合計	26,227	25,351	+876

# 連結キャッシュフロー計算書

項目	(百万円)	
	2006年3月期	2005年3月期
営業 C F	1,570	2,766
投資 C F	△3,502	△7,900
財務 C F	△450	△553
現金増加額	△2,356	△5,682
期首残高	5,219	10,902
期末残高	2,863	5,219

## Ⅱ．2007年3月期 連結決算見通し

# 精機部門の事業環境

C  
P  
夏モデル

BHDD  
D搭載機

店頭を飾る

ハイエンド映像編集機能も充実

ソニーは17日、米国の光ディスク製造拠点であるソニー・デジタルオーディオディスク・コーポレーション・インディアナ工場（ソニーDADC）で再生専用のブルーレイディスク（BD-ROM）の生産を始めたこと



発表した。ソニーは国内でも月内にBD-ROMの生産を始める計画で、6月から本格化する映画会社のソフト販売や11月

## ブルーレイROM生産開始

のプレイステーション3の販売に備えて供給体制を整える。

ソニーDADCはインディアナ工場です。16日に生産を開始した。生産能力は月産75万枚で、10月には同500万

まず米で月75万枚

枚に引き上げる。ソニーが開発したマスタリング装置やBD-ROM専用オフセット印刷機などを導入、製造から包装まで一貫生産体制を整えた。次世代DVDのブルーレイ陣営は6月から来映

次世代光ディスク対応製品の発表相次ぐ

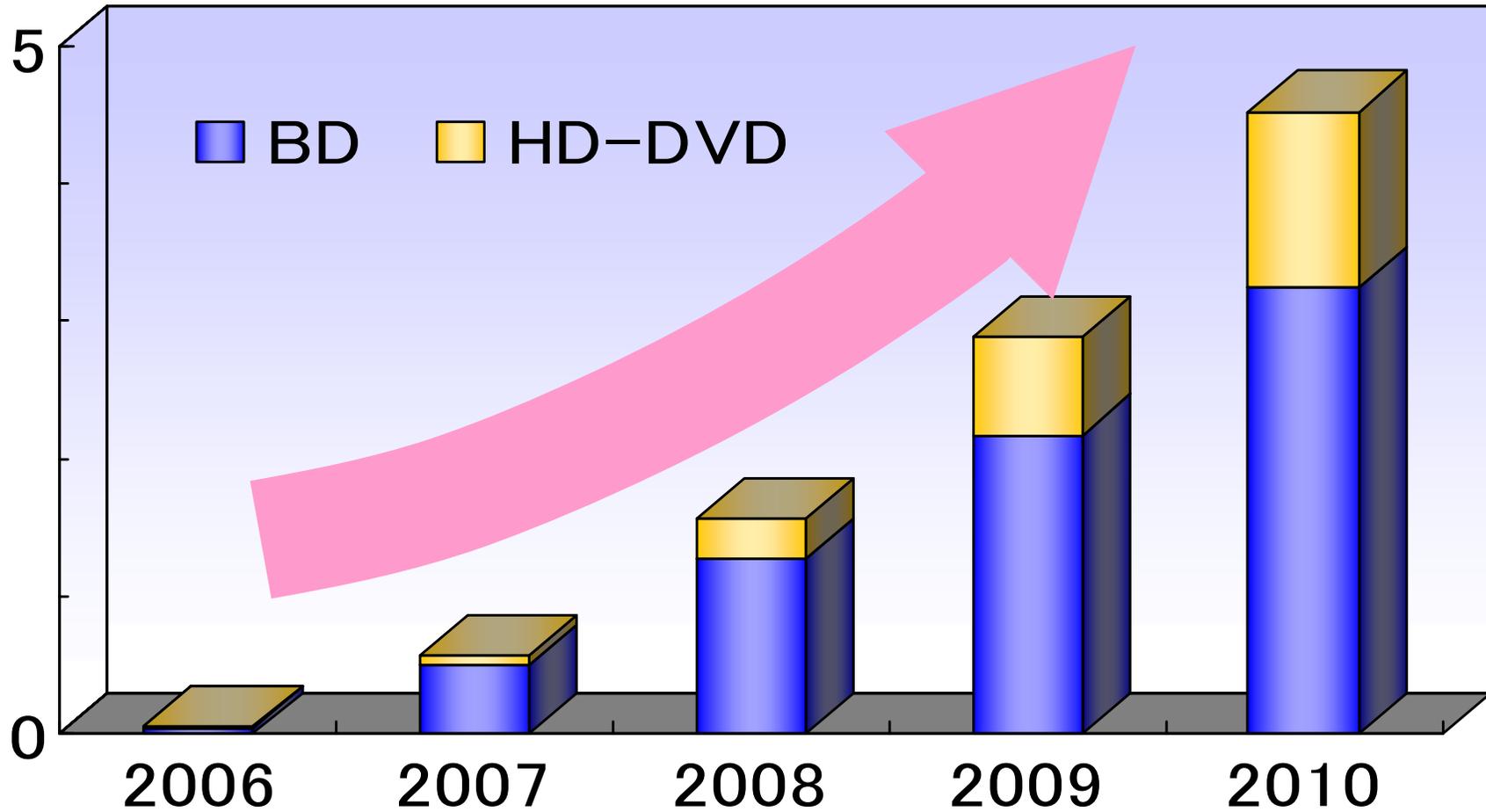
松下がブルーレイ対応製品

PCドライブとディスク

東芝、富士通はPC夏モデルに搭載

# 次世代光ディスクの市場予想（生産枚数）

(億枚)



(富士キメラ総研推定)

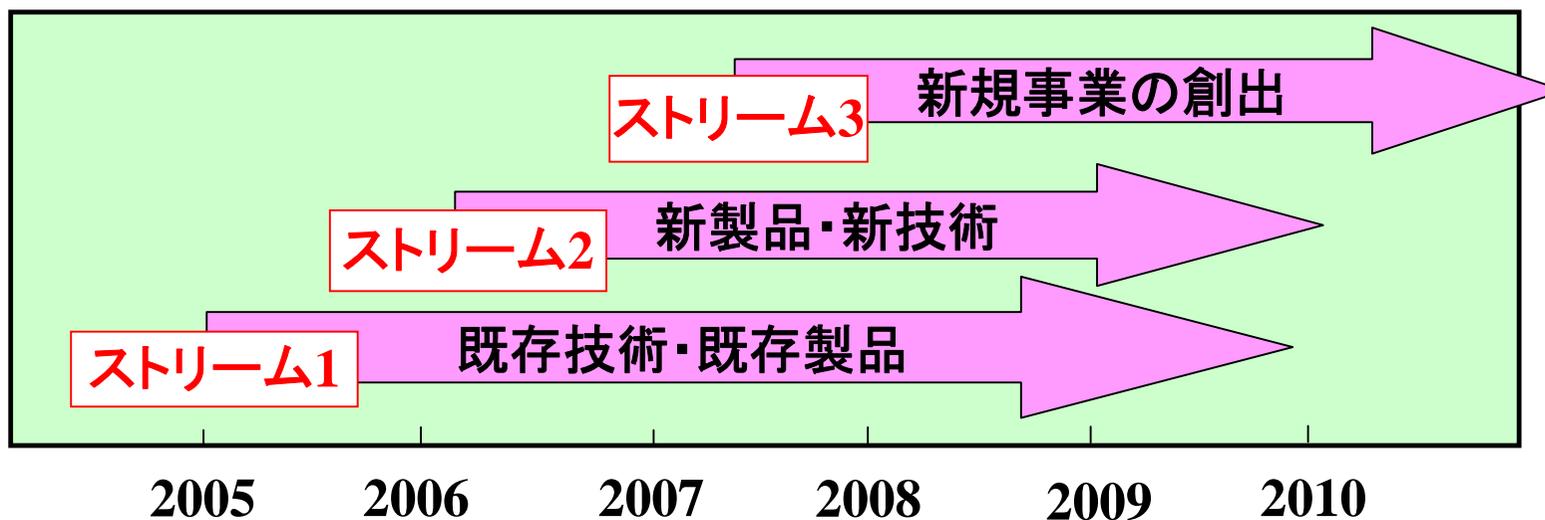
# 光製品部門の事業環境

市場		年度	~2006	2007~09	2010~
システム	長距離				
	メロアクセス				
デバイス	メロアクセス FTTH				
コネクタ類	FTTH				

# 光製品部門の事業方針

## 【中期方針】

- ① 光接続技術をベースとした既存事業の継続(→ストリーム1)
- ② 実装・組み立て技術をベースとした新領域での事業拡大(→ストリーム2)
- ③ 保有技術での新展開(→ストリーム3)



## NECトーキン株式会社(NT社)光デバイス事業の概要

事業規模

2005年度 売上高:14億円

事業所

宮城県白石・ベトナム

取扱い製品

光アイソレータ

1×2光スイッチ

LDモジュール(TOSA及びROSA)

光リモートアンテナ

光電界センサ

対象 従業員数

42名

# NT社 光デバイス事業との統合メリット①

## I. 製品ラインアップの強化

	SG	NT	統合後	
コネクタ フェルール	●	●	◎	製品ラインアップ の拡大 レセプタクル フリースペースISO
ファイバAssy 先端加工	●	—	●	
ATT等	●	●	◎	インラインISO
研磨機	◎	—	◎	

## NT社 光デバイス事業との統合メリット②

### Ⅱ. 販売の強化

**NT社製品(アイソレータ)の販売強化**  
— 既存の商流で効率的&効果的な営業が可能

- ① デバイスメーカーに対し、  
ピグテール、先端加工ファイバの販売ルートを活用
- ② 伝送装置メーカーに対し、  
アッテネータ、クリーナーなどの販売ルートを活用

# 2007年3月期 連結業績見通し

(百万円)	上半期	下半期	07/3月期 予想	06/3月期 実績
売上高	3,700	4,100	7,800	6,304
営業利益	180	400	580	1,048
経常利益	200	410	610	1,217
当期純利益	510	280	790	756
設備投資			623	977
減価償却費			688	573
研究開発費			586	472

## 2007年3月期 連結業績見通し（部門別）

	精機部門		光製品部門		(百万円)
	上期	下期	上期	下期	
売上高	1,200	1,400	2,500	2,700	7,800
営業費用	1,000	1,070	2,520	2,630	7,220
営業利益	200	330	△20	70	580

## ロゴ&マークの変更



**SEIKOH GIKEN**



**SEIKOH GIKEN**